

研究主題「自分をつくる」

小学校図画工作科

所沢市立松井小学校 松村 陽子

所沢市立南小学校 長嶋 照代

所沢市立林小学校 星 真弘

I 研究主題設定の理由

学習指導要領解説の総説には、『21世紀は、新しい知識、情報、技術が政治・経済・文化をはじめ、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。(中略)このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。』と示されている。また、『他者、社会、自然・環境とかかわる中で、これらとともに生きる自分への自信を持たせる必要がある』とも示されている。つまり、「知識基盤社会」で子どもたちに求められているのは、多様な価値観の中で自分の考えを持ちながら他者とコミュニケーションをとっていけることである。さて、このような社会状況の中、わたしたちはどのような子どもたちを育てたらよいかを考えた。他者、社会などと積極的にかかわり生きていくためには、まず、自己の確立、即ち、自立が必要である。そこでわたしたちは、「自分をつくる」を研究テーマとした。

「自分をつくる」とは、子どもが満足できる体験を通して、子ども自身が作り出す作品を通して成立するものである。作品への自己評価や他者評価を通して、自分の作品がもっと好きになり、作品を大切にす気持ちや自分を大切にす気持ちが生まれていくと考える。そのためには、“子どもが楽しめる題材を提供すること”“子どもの発想や構想が生かせるように教師の思いを押しつけない指導をすること”が必要である。

武蔵野美術大学三澤一実教授は、「表したい主題を決定し、それを色や形でどのように表すか考え、実際に造形に表す力、また、作品などから良さや美しさを感じたり、生活や社会における美術の機能を理解し、活用したりする力が図工・美術の学力と考える。図工・美術の学力は能力を示している。(中略)図工・美術で育む能力は、美術のみならず、生きていく上でさまざまなものに働く能力なのである。それらは、**自分自身をつくること**(自立)、自立を通して他者とコミュニケーションを図ること、造形の力を活用しながら文化や社会を創っていくこと一などである。」と述べている。(2010年6月7日,日本教育新聞)

図画工作科で「自分をつくる」ことは、子どもたちの「生きる力」を育てることにつながっていくのである。そこで、作品で自分を表現する活動、作品を鑑賞し合う活動から「自分をつくる」ことができるのではないかと考え、このテーマを設定し研究することとした。

II 研究の内容と方法

1 子どもが楽しみながら活動できる題材づくり

学年・学級の実態に応じて、子どもが夢中になり楽しめる題材を開発する必要がある。

子どもが夢中になって取り組めば、思いが深まり、作品を表現したいという欲求も生まれる。そのためには、教科書からの発展や指導計画に合うオリジナルの教材も考えていく必要がある。今回は、表現と鑑賞が一体化できるような題材を、低・中・高学年ごとに開発していく。

2 図画工作科におけるデジタルカメラとハイビジョンテレビの活用

「自分をつくる」ためには、「子ども一人ひとりがつくり出す表現」、「伝え合う心、鑑賞の一体化」が必要である。表現と鑑賞の一体化を目指すために、子どもたちの身の回りで使われているデジタルカメラを活用することが有効であると考えた。デジタルカメラの良さは、瞬時に作品を写し出し、気に入ったものだけを残すことができる。また、低学年でも簡単に操作をすることができるため、気負うことなく扱うことができる。写真や映像は、作品からその子の世界を鑑賞する要素や視点が増すものである。それにより、他者からの評価が増え、自分の思いを言葉にしたくなる体験が増えていく。これらは、図画工作の言語活動にもつながっていく。また、自分で撮った写真の中から、より良い一枚を選ぶことにより、作品に責任を持つことができる。自分で判断した一作品を他者へ伝えていくことは、自分自身を語ることになり、自分自身をつくることにもつながる。更に、作品を視覚化することにより、自他のよさを見ることができるようになり、デジタルハイビジョンテレビを活用していく。

III 実践事例

1 11月10日（水）松井小学校

第3学年 図画工作科学習指導案

在籍児童 29名（男子14名 女子15名）

活動場所 教室と児童会室

1 題材名 「深い深い海の生き物たち」

〔A表現（2）つくりたいものをつくる B鑑賞 つくったものを見ることに興味をもつ〕

2 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、図工が好きで、自分の表したいことに向かって楽しんで取り組んでいる。今まで、つくりたいものをつくる活動では、「モール星からのお客様」「くぎうちトントン」などで、身近な材料を集め、材料の特徴を生かして表現する活動や、形や色を工夫したり発見したりする楽しさを味わう活動、かなづちの基本的な使い方などを経験してきた。これらの活動には楽しく

取り組めたが、材料集めが保護者中心になってしまっていて自分で集めていなかったり、集めた材料の種類や量に個人差があったりして、準備や集められた材料によって発想が左右されてしまう傾向が見られた。さらに、材料からイメージをふくらませることができずに、せっかく集めた材料を生かし切れていない児童も見られた。

本題材「深い深い海の生き物たち」は、身近な材料（靴下やシャツなど）にリキットねん土をつけて新しい形をつくり出す題材である。いろいろな材料から想像をふくらませて、楽しい世界が生まれるようにしていきたい。

(2) 本題材を指導するにあたって

この題材のねらいは、布に新聞紙や布を詰め込み、その形の一部をひもで縛ったりしてぬいぐるみ状にし、そのつくった形からイメージを広げ、自分の思いに合わせて簡単な装飾を加えながら表現していく題材である。自分が使っていていらなくなったものを、リキットねん土で生まれ変わらせることができ、立たせたり、向きを変えたり、好きな形を作り出すこともできる活動である。また、蛍光インクをつかい、ブラックライトで光らせ、いつもと違う鑑賞をすることによって、意外性があり、児童にとって、表現の楽しさを十分に味わうことができる。さらに、児童が工夫する観点からも、材料や形、インクの量、色の種類や組み合わせの選択と、思いを表現しやすく、一人一人の力がよりよく働くと考えられる。後から色を付け足したり、飾りをつけたりすることでも表現の幅が広がることになる。

児童は、お互いの表現を見合う活動を通して、自分の作品の気に入ったところを話したり、友人の作品について見たり聞いたりして、自分の感じ方を深めることができる。また、カメラで自分の作品の写真を撮り、図鑑を作ることで、お互いの作品のよさを見つけ合い、認められることにより、表現意欲が喚起されると考える。

いろいろな材料が用意できるように家庭に協力依頼し、材料収集に十分時間をとり、材料集めの段階から、意欲を持たせるようにしたい。また、自分のよさに気づき、自分の思いを表現できるようにしたい。

3 学習指導要領上の位置付け

本題材は、3学年及び4学年の内容「A表現」(2)「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表す」に対応したものである。いろいろな表し方を組み合わせながら、児童が表したい形や色などを自分で選び、試み、表すことで幅広い造形活動ができる。また、自分や友人の色や形、つけ足したもののおもしろさを認め合うことで、内容「B鑑賞」(1)「自分たちの作品を鑑賞して、よさや面白さを感じとること」につながる。本題材の活動を通して、目標(1)「表したいこと、つくりたいものを自分の表現方法でつくりだす喜びを味わうようにする」に迫ろうとしている。

〔共通事項〕

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。

イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

4 目標及び評価規準

(1) 目標

布や手袋の特徴を生かしながら、想像を広げ、形や色、組合せなどを考えて、自分の世界が表現できるよう、つくりたいものをつくる。

(2) 評価規準

○布製品を切ったり、組み合わせたりしていろいろ試している。

(造形への関心・意欲・態度 関)

○布製品に新聞紙を詰め込んだりひもで結んだりした形からイメージを広げている。

(発想や構想の能力 発)

○自分で集めた材料などで簡単な飾りをつけたりして、自分の表現を工夫している。

(創造的な技能 創)

○自分や友達の作品を見て、表現のよさや面白さを味わっている。

(鑑賞の能力 鑑)

5 指導計画 (8時間扱い)

学習計画	活動内容
組み合わせを考えて 1時間	材料を組み合わせたり、結んだり、ねじったりして、イメージに合わせた形をつくる。
魔法をかけて 1時間	自分の表したい形にリキットねん土をつける。
飾り・色をつけて 2時間	自分の表したいイメージに合わせて、色や飾りをつける。
作品を飾ろう・写真を撮ろう 2時間	作品を飾ったり、深い深い海の中を作ろう。 自分の作品の気に入った向きの写真を撮る。(昼バージョン)
見て見て作品・写真を撮ろう 1時間【本時】	ブラックライトが作り出す、幻想的なよさを味わう。 自分の作品の気に入った向きの写真を撮る。(夜バージョン)
図鑑を作ろう 1時間	お気に入りの写真を選び、その生き物の特徴を書き、図鑑を作る。

6 本時の学習活動

(1) 本時の目標

ブラックライトが作り出す幻想的なよさを味わおう。すてきな一枚の写真を撮ろう。

(2) 準備

教師の準備・・・暗幕、ブラックライト、デジタルカメラ (武蔵野美術大学より)、ラジカセ、黒い布

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容〔共〕)	評価と手立て 観点：評価規準【評価方法等】 ◎：十分満足できる状況 ◆：C判断児童への手立て
導入 5分	<p>今日はたくさんのお客様が来ていますね。この間は、昼の海の中を探検したね。今日は、いよいよ、夜の深い深い海の生き物たちに会えますよ。昼の海とは、違うのかな？どんなふうになってるのかな？楽しみだね。ワクワク・ドキドキだね。さあ、潜水艦に乗って夜の海の中へ出発だ～！！</p> <p>提案「深い深い海の中の生き物たちの夜の海を探検しよう！」</p>	<p>○児童がワクワクするような言葉かけをする。</p>	
展開 ① 10分	<p>2. 教室の中の生き物たちを見る。</p> <p>「わ～すごい。」</p> <p>「昼と夜では、違うんだなあ。」</p> <p>「きれいな生き物たちがいっぱいだ～。」</p> <p>「魚が光ってるよ～。」</p> <p>「海の中にいるみたい。」</p>	<p>○海の中にいるように、導入で流した音楽を流しながら、鑑賞できるようにする。<u>形や色の向きなどに気づくように声かけをする。</u></p> <p>【共】</p> <p>○昼とは違う海の中の様子に気付くように、教室の中を回れるよう、配置に配慮をする。</p>	<p>関 深い深い海の中を楽しんだり、友だちのよいところを見つけようとしている。</p> <p>【表情・行動観察】</p> <p>◎教室の中にある生き物たちのおもしろい所や形や色などのいい所を見つけようとしている。</p> <p>◆どこから見てよいか迷っている児童には、近くにある生き物から見つめ、どんな所が好きか探させる。</p> <p>◆ひとつの場所から動かない児童にはたくさん生き物を見るように声かけをする。</p>
8分	<p>3. 夜の海を探検して、昼の海との違いに気付き、発表する。</p> <p>「色合いがとてもきれい。」</p> <p>「同じ魚が、違う魚に見えたよ。」</p> <p>「深い海の中にいるみたいだったよ。」</p>	<p>○昼とは違う風に見えた生き物たちに気付き、発表しあう。</p>	

展開 ② 17分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 自分のお気に入りの場所(角度)を写真に撮ろう。 </div>		
	<p>4. お気に入りの向きの場所で写真を撮る。</p> <p>「ぼくの組み合わせは、ここがおもしろいので、ここにしよう。」</p> <p>「オレンジが目立っていない。ここの場所がいいかな？」</p> <p>「この中から、うまく撮れたこの写真にしよう。」</p> <p>「あ～ぼけちゃった。もう一枚撮ろう。」</p>	<p>○ブラックライトの中で、照らされた生き物たちの形や色で表した作品の中から、自分の写したいイメージを持つことができるように、写真を用意する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>	<p>創深い深い海の中の生き物たちの中から、自分のイメージを基に、写真を撮り、一枚選ぶ。</p> <p style="text-align: center;">【創造的な技能】</p> <p>◎お気に入りの向きの場所を見つけ、写真をどんどん撮っている。</p> <p>◎撮った写真の中から一番いいものを選んでいく。</p> <p>◆ポイントを選べない児童には、対話をしながら、本人のイメージを具体化していく。</p> <p>◆一枚に絞れない児童には、お気に入りの部分を聞き、図鑑の載せたい写真になるよう、声かけをする。</p>
整理 5分	<p>5. 本時の学習内容を振り返り、学習の感想を発表する。次時の学習内容を知る。</p> <p>「みんな、写真を撮りたい場所が違うんだな。」</p> <p>「また、海の中に行きたいな。」</p>	<p>○本時のめあてを確認し、今日の感想を発表する。</p> <p>○自分たちの図鑑を作ることを予告する。</p>	

2 11月19日(金) 南小学校

第1学年 図画工作科学習指導案

在籍児童数 33名(男子17名 女子16名)

活動場所 教室・校舎内・校庭等

1 題材名 「はるはる☆すてきなぼうし☆」

(関連：編成要領内容別題材配列表例『すきなかんじにはりたいな』)

[「A表現」(1)材料を基に造形遊びをする活動 B鑑賞 身の回りの作品などを鑑賞する活動]

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級は、図工が好きな児童が多く、毎週何をするのか楽しみにしている。自分の表したいことに向かって楽しんで取り組んでいる。これまで、生活科で釣ったザリガニと一緒に遊ぶ絵をのびのびと描いたり、「おしゃれなバッグ」「つなげてかさねて」などで、身近な材料を集め、材料の特徴を生かして表現する活動をしたりしてきた。これらの学習から、形や色を工夫したり発見したりする楽しさを味わう体験を積み重ねてきている。保護者も大変協力的で、材料をコツコツ集め、学習に間に合うように用意してくれている。しかし、材料集めが保護者中心になってしまい、材料からイメージをふくらませることができずに、せっかく集めた材料を生かし切れていない児童が見られた。また、家で手をかけすぎているのか、道具を使う体験が少ないのか、ハサミをうまく使えず、指を切ってしまう児童や、端をそろえて紙を折ることができない児童もいる。

本題材「はるはる☆すてきなぼうし☆」は、国語の読み聞かせの絵本『ミリーのすてきなぼうし』から発展し、実際に自分でかぶれるぼうしを作ってみようとするものである。以前、この絵本を読み聞かせした後、主人公になったつもりで自分なりの想像の帽子を描いた。児童は、思い思いの色や形で自分のイメージをふくらませ、ユニークな帽子の絵を描いていた。今回は、色や形を大切に、紙を丸めたり、折ったりしながら、薄めた洗濯のりをつけて台紙に貼り、偶然にできる不安定な色や形、重なり、感触などのおもしろさを楽しみながら表現していく。台紙を帽子の形に折った新聞紙にかえることで、半立体から幅や高さのある立体作品に仕上げることができる。作製後、仕上がった帽子を実際にかぶり、みんなで見て楽しめるようにしていきたい。

(2) 本題材を指導するにあたって

この題材は、楽しさを十分に体験することをねらいとしている。楽しむことを通して、表現していくことのおもしろさを感じていく活動である。両手を使い、普段はあまりしたことのない、お花紙のふわふわした感触や洗濯のりのどろどろした感触を体験することができる。また、自分の選んだ色や考えた形を台紙に貼りながら、自分のイメージを持ち、その形に表現しようとするおもしろさがある。自分なりの方法を試してみたり、友だちのよいところをまねしてみたり、様々な活動が考えられる。乾いたときにうまくくっついていなかったり、思ったようにできなかつたりする子もいるだろう。しかし、自分ではうまくできなかつたと思っても、ぼうしにしてみるまでわからないという意外性があり、児童にとって、表現の楽しさを十分に味わうことができると考える。児童が工夫するという観点からも、材料や形、洗濯のりの量、色の種類や組み合わせの選択と、自分の思いが表現しやすく、一人一人の力がよりよく働くと考えられる。さらに、お花紙で表現しきれないところは、他の材料を貼ったり、描画材で描き加えたりすることもでき、表現の幅が広がることになる。

指導にあたっては、紙や洗濯のりの感触を楽しむ時間を十分とって、何か作りたいという意欲をもたせるようにしたい。造形表現活動の快さや楽しさを体験しながら、自分のよさに気づき、自分の思いを表現できるようにしたい。

本題材の授業の中で、自分をつくっていくためのキーワードは、

- 身体表現
- 写真表現

○鑑賞と表現の一体化

である。

児童は、BGMに合わせて校内をパレードすることで（身体表現）、自分たちの作品を周りの人たちにってもらい楽しさを感じることができる。「ぼうし」だから、体を使ってあらわせるのである。見た人が声をかけてくれたり、ほめてくれたりすることにより（他者からの評価）もっと作品がすきになり、自分のよさに気づく児童もいるだろう。

グループに分かれ、写真を撮りながらお互いの作品を見合う活動を通して（写真表現と身体表現）自分の作品の気に入ったところを話したり、友人の作品について見たり聞いたりして、自分の感じ方を深めることができる。また、お互いの作品のよさを見つけ合い、認められることにより、表現意欲が喚起されると考える。一人はモデルとなって体を使って表現をする。また、もう一人はカメラで写真を撮ることで、写真表現をしながら友だちの作品の鑑賞をする。体を生かして表現することと、カメラを見る道具として鑑賞することで、表現と鑑賞の一体化を目指したい。図画工作では、言葉ではない言葉を使ってあらかず活動も多い。今回は、体であらかず言語活動とも考えられる。モデルとなった児童は、友だちに撮ってもらった写真から自分で気に入った一枚を選び、掲示する。たくさんの写真の中から、一枚だけを選ぶという判断は、とても難しい。気に入った一枚を選びながら（自己決定）、自分のよさにも気付くことができる。また、「写真を撮ってくれて、ありがとう。」等の会話から、コミュニケーションも生まれていくであろう。

3 学習指導要領上の位置付け

本題材は、第1学年及び第2学年の内容「A 表現」(1)「材料を基に造形遊びをする活動」イ「感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること」に対応したものである。いろいろな表し方を組み合わせながら、児童が表したい形や色などを自分で選び、試み、表すことで幅広い造形活動ができる。また、自分や友人の色や形、つけ足したもののおもしろさを認め合うことで、内容「B 鑑賞」(1)「身の回りの作品などを鑑賞する活動」ア「自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。」にもつながる。本題材の活動を通して、第1学年の目標(1)「造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。」に迫ろうとするものである。

〔共通事項〕

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

4 目標及び評価規準

(1) 目標

材料の触り心地の快さを味わいながら、色の組み合わせや形の変化で表すことを楽しみ、自分の世界を表現する。

(2) 評価規準

○身の回りの材料の感触を楽しみながら、いろいろな貼り方を試そうとしている。

(造形への関心・意欲・態度 **関**)

○薄い紙と洗濯のりの感触を味わいながら、工夫して表している。

(発想や構想の能力 **発**)

○表したい感じが出せるように形や色、並べ方や組み合わせを考えて表現し、自分の世界が表せるように工夫している。

(創造的な技能 **創**)

○自分や友だちの作品を見て、表現のよさや面白さを味わっている。(鑑賞の能力 **鑑**)

5 指導計画（7時間扱い）

学習計画	活動内容
紙であそぼう！ (造形遊び) 2時間	いろいろな紙をおる、ちぎる、丸める、ねじる、かさねるなど、紙の感触を楽しみながら遊ぶ。 (個人・グループ活動)
はるはる☆おはながみ☆ にちょうせん！ (つくりたいものをつくる) 1時間	「おはながみ」に触り、感触を確かめたり、のりをつけたりしながら、形や色の組み合わせを楽しみ、台紙に貼る。(個人活動)
はるはる☆すてきなぼうし☆ にしよう！ (つくりたいものをつくる) 2時間	「おはながみ」を貼った台紙で、好きな形のぼうしをつくる。ぼうしの色や形から発想を広げ、クレヨンで描いたり飾りをつけたり、さらに「おはながみ」をはったりする。(個人活動)
ぼうしをかぶって でかけよう！ (つけてかざる展示・ カメラを道具にした鑑賞) 2時間【本時6／7】	できあがった「はるはる☆すてきなぼうし☆」をかぶって学校をパレードする。その後、二人組で好きな場所・好きなポーズで、写真を撮り合う。 お互いがデジタルカメラを通して作品を見ることで、友だちの作品のよさに気付く。また、気に入った写真を選ぶことで、自分の作品のよさに気付く。 (グループ活動)

6. 本時の学習活動

(1) 本時の目標

- 「はるはる☆すてきなぼうし☆」をかぶってパレードをすることを楽しむ。
- お互いの写真を撮り合うことで、自分や友だちの表現のよさを味わう。

(2) 準備

- 教師の準備 ラジカセとBGM用の音楽、デジタルカメラ（武蔵野美術大学より）
タイマー、姿見、大型テレビ
- 児童の準備 ぼうしに合った服

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容〔共〕)	評価と手立て 観点：評価規準【評価方法等】 ◎：十分満足できる状況 ◆：C判断児童への手立て
導入 5分	<p>「はるはる☆すてきなぼうし☆」ができたね！このぼうしをかぶって、どこへ行きたいかな？だれに見せたいかな？さあ、今日は、ぼうしをかぶってパレードしよう！</p> <p>提案1 「はるはる☆すてきなぼうし☆をかぶって、でかけよう！」</p>		
展開① 20分	<p>1. 教師の提案を聞き本時の活動のおよその見通しをもつ。</p> <p>「パレードだって。」</p> <p>「おもしろそう。」</p>	<p>○職員室の先生方やお世話になっている6年生にも見てもらうことを伝え、楽しい気分が高まるようにする。</p>	<p>関意欲的にパレードに参加し、自分を表現したり、友だちの表現のよさに気づいたりしている。【表情・行動観察】</p> <p>◎様々な動きで、周りの人にもぼうしを見せようとしている。</p> <p>◆はずかしそうにしている児童には、ぼうしのよさをほめ、見せたいような気分にし</p>
展開② 15分	<p>提案2 「今日の記念に、好きなところ・好きなポーズで写真を撮ろう！！」</p>		
	<p>3. 自分と友だちのぼうしを見る。(お互いの写真を撮りあう。)</p> <p>「どこでとる？」</p> <p>「あそこに、いきたいな。」</p> <p>「どんなポーズにしようか？」</p> <p>「ここでとって。」</p>	<p>○2人組(または3人組)をつくり、各グループにデジタルカメラを一台ずつ渡す。</p> <p>○児童に以下のことを伝える。</p> <p>①自分の好きな学校の場所へ行くこと。</p> <p>②帽子をかぶって好きなポーズをとること。</p> <p>③ポーズをとった友だちを写真にとってあげること。</p> <p>④デジタルカメラなので、何枚撮ってきてもよいこと。</p>	<p>鑑写真を撮りながら、自分や友だちの作品のよさや面白さを味わっている。</p> <p>【行動観察・画像】</p> <p>◎場所を決め、ポーズを考えてどんどん写真を撮っている。</p> <p>◆場所を決めることに戸惑っている児童には、学校で気に入っている場所に行くように声かけをする。</p> <p>◆ポーズを考えられない児童には、姿見を見ながら、どうやったら帽子が素敵に見えるか</p>

	<p>「わあ、うつつあ。」「○ ○くんのぼうし、いろんな 色できれいだね。」 「○○さんのポーズ、かわ いいね。」</p>	<p>○デジタルカメラを落としたり、 壊したりしないように、ネクスト トラップをつけたまま写真を撮 るように指導する。 ○グループごとにタイマーを渡 し、タイマーが鳴るまでに（また は、鳴ったら）戻るように伝える。 ○写真を撮る際に、<u>形（帽子・ポ ーズ）</u> や <u>色（帽子・背景）</u> に気づ くように声をかける。〔共〕 ○数名の写真をテレビに映して 見合う。</p>	<p>を考えられるように声かけす る。 ◆写真を撮ることに戸惑って いる児童には、何枚とってもい いこと、全身を入れたり、アッ プにしたりと、いろいろ試して みるように声かけをする。</p>
<p>整 理 5 分</p>	<p>4. 本時の学習を振り返り、 学習の感想を発表する。次 時の学習内容を知る。 「みんなは、どこでとった のかな？」 「ぼくは、このポーズでと ったよ。」 「はやく見たいね。」</p>	<p>○本時のめあてを確認し、今 日の感想を発表する。 ○友だちに撮ってもらった写 真から気に入った一枚を選び、 プリントして、お互い見合う活 動をすることを予告する。</p>	

3 12月 1日（水）林小学校

第5学年 図画工作科学習指導案

男子18名 女子17名 計35名
活動場所 多目的ルーム

1. 題材名 「遊びにおいでよ、ボクのうち」

2. 題材について

(1) 児童の実態

本学級の子どもたちは、毎週の図画工作の時間を楽しみにしているように見える。実際に本当に楽しみにしているのか、どのくらい好きなのか気になったので、図画工作について訊いてみた。

図画工作アンケート 11月中旬実施 35名

1. 図工は好きですか。

好き 16人 どちらかという好き 12人 どちらかという苦手 7人 苦手 0人

(主な理由) 好き・全部好き ・ 工作が楽しい ・ つくることが好き ・ 絵を描くことが好き

・ 完成したときうれしい ・ 自由にできる

苦手・絵を描くことが苦手 ・ 工作が苦手 ・ だんだん作品がダメになっていく

・ 計画的にできない ・ アイデアをうまく表せない

2. 好きな教科は何ですか。

(好きな順) 体育 音楽 図工 社会 家庭 国語 算数 理科

想像していた以上に「好き」「どちらかという好き」と答えた子が多くてよかった。「苦手」な子がいなくてよかったが、「どちらかという苦手」が予想よりも多かった。理由として気になったのが、「作って（描いて）いくと、だんだん作品がダメになっていく」と答えた子が多かったことで、この理由は、「好き」と答えた子も同調していた。

5年生になって今までに、校舎内の好きなところ（見方によってステキになるところ）を探して絵に表す「ステキな場所を探しに行こう」、初めての電動糸鋸を楽しく使いながら、切った木片を組み合わせて立体に表す「気ままに糸のこドライブ」、アルミ針金とアルミ缶を使って動いている人を作る「〇〇しているその瞬間」などの活動をしてきた。

どの題材も、意欲的に活動できていた子が多かった。しかし、それらの活動を通して感じたことは、用具の使い方をわかっていない子が多いことと、用具を使う経験が不足していると思われる子が多いということである。パレットの使い方やはさみやカッターの持ち方など、基本的な指導もその都度行い正しく使う経験を増やし、少しでも自分が表したい表現に近づける技術を持つことができれば、「だんだん作品がダメになっていく」子も少なくなると思う。

(2) 本題材を指導するにあたって

本題材は、自分で撮った写真をベースに、様々な用具や材料を使って形や色を工夫しながら、「ボクのうち(の周り)」をつくる活動である。

本題材を作るにあたって、自分の頭の中にあったのは、「デジタルカメラ」を使うことである。昨今の機器の普及率や便利さから察するに、この「デジタルカメラ」は避けて通れない道であり、これからの子どもの生活に必要なスキルのひとつになると思ったからである。写真がデジタルに変わったことによって、世界を切り撮ることが容易になり、撮ったものの取捨選択も楽にできるようになってきた。子どもたちの感性を磨くのにとても有効な機器である。これを活用しない手はない。

試行錯誤を繰り返した結果、撮った写真を使い、作品を3Dに表すことにした。紙を使って「立てる」「貼る」という活動である。自分の家もしくは家の近くの写真を奥に配置し、手前や周りに理想の世界を作っていく。そして、その世界へ誘う「自分」を置く。世界を彩る装飾は何を使ってもいいことにした。

最後の鑑賞活動で、再びデジタルカメラを使い、完成した自分の作品を自分の思う絶妙なアングルで、1枚の写真に切り撮る。その写真を大きなモニターに映し、みんなに紹介する。

子どもたちは、今までに培ってきた発想力や想像力、造形感覚、創造的な技能を働かせて、試行錯誤しながら作品を作り上げていくと思う。その中で、物事に対する見方や考え方を振り

返り、新しい発見をしながら自分自身を高め、新しい表現方法を知る喜びや、現実世界の素敵さを再確認してくれたらいい。

とは言ったものの、本題材は、本学級の子どもたち、いや、5年生にとって大変難しそうである。しかし、子どもの考える「失敗」を失敗と捉えず、そこをどうしていくかプラスに考えていく柔軟性をここで育てていきたい。そのために、自分なりの「形」「色」を意識させながら活動させたい。そして、作り上げていくものが、「だんだんステキになっていく」そんな風に思えるようになれば幸せだ。

3. 学習指導要領上の位置付け

本題材は、第5学年及び第6学年の内容「A表現」(2)「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動」の、ア「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見つけて表すこと。」、イ「形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。」に対応している。また、自他の作品を見合い、お互いのよさを感じ取ることで、内容「B鑑賞」(1)のイ「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図などの特徴をとらえること。」にも対応している。本題材の活動を通して、目標(1)「創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。」に迫っていく。

〔共通事項〕

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

4. 目標及び評価規準

(1) 目標 材料の特徴を考えながら想像を広げ、つくり方を工夫して自分の気持ちを表す。

(2) 評価規準

○さまざまな方法を試みながら、自分の思い描いたイメージを表すことに取り組もうとしている。

○自分の思い描いたイメージになるような形や色を考えている。

○自分の思い描いたイメージに合わせて、材料や用具の特徴を生かして、表し方を工夫している。

○自他の作品を見て、表現の工夫や特徴をとらえ、お互いのよさを感じ取っている。

5. 指導計画(6時間扱い)

学習計画	活動内容
(事前)	自分の通学路(家)と自分の全身写真をデジタルカメラで撮影し、カラープリントする。

どんなうちにしてよかな 45分	基本となる立体(土台)をつくり、自分の通学路の理想のイメージを思い浮かべながら、テーマや形、色などを決める。
つくろう！ステキなうち 160分	奥行きや材料の特徴を考えながら、自分の気持ちを表す。
写真を撮ろう 20分	自分の作品を自分の思う絶妙なアングルで写真に収める。
遊びにおいでよ 45分【本時】	自他の作品を紹介し合い、お互いの表現のよさや面白さを感じ取る。
(事後)	自分の作品を紹介する30秒程度の動画を撮影し、見合う。

6. 準備

材料・用具

《教師》工作用紙、厚紙、画用紙、色画用紙、カッター、特殊はさみ、工作マット、カラーペン、デジタルカメラ（武蔵野美術大学より）など

《児童》画材道具、はさみ、カッター、両面テープ、ボンド、工作マット、装飾用品など

7. 本時の学習（本時6／6）

(1) 目標

○自他の作品を紹介し合い、お互いの表現のよさや面白さを感じ取る。

(2) 準備

《教師》モニター（デジタルハイビジョンテレビ）×3、作品の写真データ、付箋、感想カード

《児童》作品、発表カード、（発表原稿）

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される児童の具体的な姿	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容〔共〕)	評価と手立て 観点：評価規準【評価方法等】 ◎：十分満足できる状況 ◆：C判断児童への手立て
導入 3分	1 本時の流れを知り、発表の準備をする。 「緊張するけど、しっかり発表しよう。」 「どれから見ようかな。」 「うー、ドキドキする。」	・本時の目標と鑑賞活動のルールを確認する。 ・自分が作った作品を、自信を持って紹介できるように、声かけをする。	

<p>展開① 25分</p>	<p>提案：ボクのうち、わたしのうちを紹介しよう</p> <p>2 モニターを使い、自分の作品を紹介する。 「ぼく（わたし）は、〇〇をイメージして作りました。」 「ぼく（わたし）の工夫したところは〇〇です。」 「〇〇のところを見てください。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いが聞いている人に伝わるように、自信を持ってしっかりと発表させる。 ・自分がこだわった形や色、奥行きなどの造形的な特徴を説明できるようにする。[共] ・発表が円滑に進んでいるか、状況を観察する。 ・制作者の薦める見方を称賛する。 	<p>関友だちの作品に関心を持ち、楽しんで活動している。</p> <p>【行動観察・表情・発言】</p> <p>◎自分の作品の形や色、奥行きなどの特徴を意欲的に発表したり、友だちの作品のよさを見つけながら発表を聞いたりしている。</p> <p>◆制作者が薦める見方から作品鑑賞をさせる。</p>
<p>展開② 5分</p>	<p>提案：みんなのまちをつくろう</p> <p>3 部屋の中央に作品をディスプレイする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマが似ている作品同士を並べて、まちをつくらせる。 ・ディスプレイした作品の間隔に偏りがないか声かけする。 ・モニターはスライドショーにしておく。 	
<p>展開③ 7分</p>	<p>提案：友だちのうちに遊びに行こう</p> <p>4 自由に作品を鑑賞し合い、意見交換する。 「ぼくのうちに遊びにおいでよ。」 「〇〇さんのうちに遊びに行こう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分」を動かして、友だちのうちへ遊びに ・楽しく交流できるように、声かけをする。 	<p>鑑友だちの作品のよさや面白さを味わっている。【行動観察・表情・発言・記述】</p> <p>◎友だちの作品のよさや面白さを、自分の気づきや感じ方と比べながら活動している。</p> <p>◆担任が「自分」を持って遊びに行き、友だちとも楽しく交流できるように声かけをする。</p>
<p>整理 5分</p>	<p>5 学習のまとめをし、後片付けをする。 「〇〇くんのうちが、〇〇でステキだった。」 「人によって撮り方が違っていておもしろかった。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を確認し、簡単に感想を発表させる。 ・学習カードに記入させる。 	

IV 研究の成果

1 子どもたちが楽しみながら活動できる題材の工夫と鑑賞の広がり

子どもたちは活動後、写真や動画から一作品を選び、お互いに鑑賞し合った。何回も撮った写真や動画の中から“一つを選ぶ”ことは、作品を自分で鑑賞し、自己決定をすることにつながる。

写真や動画を地上デジタル対応で各学校に配置されたデジタルハイビジョンテレビ画面で見合って鑑賞をした。これらの活動は、自己決定した作品を空間や時間に左右されることなく、一瞬のことを自在に見ることができる。画面を見る子どもたちの表情はとても真剣で、次々とお互いの作品のよさを発表していた。自分では気づかなかったことを教えられたり、自分の作品に自信が持てなかった子どもが、認められることで自分のよさに気づいたりしていた。他者に評価されることで、更に充実した自己評価につながったと考えられる。画像や映像を媒体にすることは、周りに作品が伝えやすく、発表が苦手な子どもや、聞くことが苦手な子ども、どのようによさを見つけたらよいのかわからない子どもへの有効な手立てにもなる。また、活動を残しておけるので保護者にも見せることができ、学校での活動や子どものよさを知らせることが可能である。保護者にほめられることは、子どもたちが自分に自信を持てるきっかけにもなるであろう。

様々な事情から子どものつくった作品を残しておくことができず、廃棄せざるを得ない家庭も増えている。学校の授業の中で、デジタルカメラで記録して残しておくことは、作品の保管方法の提案にもなる。学校で学習したことを生かし、家に帰り同じように残していくことも考えられる。実際に、携帯電話やデジタルカメラを使って作品を残している家庭もある。子どもたちはデジタルカメラやテレビ画面には慣れ親しんでいるので、題材に応じてデジタルカメラやテレビ画面を使った鑑賞や保管の仕方を取り入れていったらよいのではないだろうか。

自己決定から他者の評価を通し、自分の作品を好きになることは、自分のよさに気づくことにつながっていく。今回の授業研究では、どの子どもたちからも満足した様子が伝わってきた。これらのことから、「自分をつくる」活動ができたのではないかと考えている。

2 デジタルカメラを授業の中で使うことの可能性

低・中学年では、作品を写真に撮って鑑賞活動を行った。失敗を気にせず、何枚も撮ることができるので、子どもたちはのびのびと活動することができた。手を使ってかこうとすると技術や時間が必要だが、デジタルカメラは押すだけで写せるので、短時間で試行錯誤ができ、発想を試すことができる。

また、一回目よりも二回目に撮った時の方が、子どもたちが生き生きと活動し、角度や構図等に変化が見られた。一回目に撮った作品を鑑賞した際、自分の作品を客観的に見たことで、どのようにしたらよいのか気づいていったと考えられる。角度や背景、大きさを考えることは、自分の作品を見直すきっかけとなり、作り上げた満足感だけでなく、自分の作品の発見を通し、作品をすきになる気持ちが高まった。教師は、子どもたちの写真を通じ、作者の気持ちや思いを改めて知ることができた。

高学年では、写真だけではなく、ムービー機能を使い、作品の説明を入れながら、映像

を撮る活動も行った。パッと見ただけでは、気づかないような細かいところも、実際に映しながら説明することができるので、特に立体作品を発表するのに有効である。普段あまり話さない子どもがよく話していたり、すぐ飽きてしまう子どもが満足するまで粘り強く撮り直していたりしたことから、子どもたちは自分の作品に強い思いを持っていることが伝わってきた。映像の中のストーリー性が増し、みんなの前で作品を見せながら発表したときには伝えきれなかったことも、相手に伝えることができていた。自分の作品を語ることは、自分の価値基準をつくることにつながっていく。自分がしっかりできて初めて、相手の作品も見られるようになっていく。

教師は、ムービー機能を活用したことにより、子どもの思いがより明確に伝わってきて、評価の改善にもつながった。図画工作科では、完成した作品からだけではなく、つくっている過程から子どもの力をみたり、子どもの思考をとらえたりする力が必要である。見ただけではわからなかった子どもの作品に対する思いを知ることは、評価をする上でとても重要だと考えられる。

V 今後の課題

1 題材の指導と評価について

今回の実践のように、子どもたちにデジタルカメラを持たせ自由に活動させてしまうと、あっちこっちに散らばってしまい、児童の活動の把握が難しくなってしまう。自由な活動は自由な発想を生み出すのに効果的ではあるが、指導が行き届かなかったり、その過程での評価ができなかつたりする可能性がある。どこで何を指導し、どこでどのような方法で評価するのか、しっかりと計画することが大切であると感じた。また、子どもの自立を促す(子どもが自分の作品に自信を持てる)よりよい声かけの方法を考えていかなければならないと感じた。言葉による評価の充実、そして、子どもたち同士による言語活動の充実が「自分をつくる」ことにつながっていくからである。

今回の実践は、デジタルカメラを使った鑑賞活動の提案であったが、子どもたちが撮影した写真は、あくまで、子どもたちが思いを込めて作った作品の延長線上にある。制作活動が子どもたちにとって充実したものでなければ、撮影するという活動も充実したものにはならないのである。

2 デジタル機器を使った学習環境の整備について

今回の授業ではデジタルカメラが必須アイテムである。活動の内容によるが、子ども二人に1台使用させるとなると、20台は必要となってくる。この研究では、指導者である武蔵野美術大学の三澤一実先生のご協力によりお借りすることができたが、学校で20台のデジタルカメラを購入するには、非常にコストがかかる。それに、写真を印刷するための専用紙やインク代も考えなくてはならない。

また、精密機械なので、使い方を誤ったり雑に扱ったりすると壊れてしまう恐れがある。それを防ぐためには、子どもにとって分かりやすい使い方マニュアルをつくる必要があると感じた。使い慣れることができれば、デジタルカメラの様々な機能を駆使しての撮影

が可能となり、より魅力的な写真を撮ってくれるに違いない。

今回はデジタルカメラで撮った写真(SDカード)をデジタルハイビジョンテレビに映し出すことができたが、デジタルカメラで撮った動画はSDカードでデジタルハイビジョンテレビでは映せなかった。これは、一般的なビデオカメラで撮った動画はMPEG規格あり、デジタルカメラで撮った動画はAVI規格という、規格の違いによるものらしい。デジタルカメラで撮った動画は、パソコンに接続しないとデジタルハイビジョンテレビで見ることができないので、手間がかかる。他の機器との互換性はある程度知っておく必要があると考えられる。

～授業中のスナップ～

「深い深い海の生き物たち」(松井小学校)



「はるはる☆すてきなぼうし☆」(南小学校)



「遊びにおいでよ、ボクのうち」(林小学校)

